BUTTERFLY

WHITE PAPER · システム移行

システム移行：推測ではなく測定。

業務管理、資産・保守、承認の各システムから移行する際にButterflyが採用する手法：まず棚卸し、次に移行、続いて旧システムとの1対1の検証と段階的な切り替えを行います。

棚卸し

文書化された構成、導入済みの構成、実際に使われている構成

移行

レコード、履歴、業務の進め方

検証

旧システムとの数値比較

段階的な移行

パイロット、並行稼働、切り替え

エグゼクティブサマリー

システムの入れ替えとは、実際に動いている業務を漏れなく移すことです。

システムの入れ替えとは、旧ツールのライセンスを解約する前に、そのツールで実際に動いている業務を見つけ出し、新しい環境へ漏れなく移すことです。移行をリスクの高いものにするのは、多くの場合、技術ではなく、何を移行するかを推測で決めることです。

業務管理、資産・保守、承認の各システムには、長年のうちに項目、ルール、アドオン、接続が蓄積します。毎日使われるものもあれば、何年も開かれていないものもあります。この違いを把握せずに移行計画を立てると、使われていない構成を移行するか、使われているステップが失われるかのどちらかになります。

Butterflyは測定に基づいて移行を進めます：移行元システムの構成と利用データを読み取り、移行範囲を文書で一覧化し、移行したデータを数値基準で旧システムと比較し、パイロットと並行稼働を経てから切り替えを行います。Butterflyは既存システムを置き換える必要はありません。その上に導入してシステム間の業務を管理でき、必要であればそれらのツールを置き換えることもできます。

本書の内容

- 移行の難しい点と、それぞれへの回答
- 4ステップの手法と、各ステップで測定するもの
- 移行するもの、再構築するもの、対象外とするもの
- 連携：同じAPI、新しいアドレス
- 現場からの2つの移行事例：自社の業務管理システムと、製造業の資産・保守システム
- 準備状況チェックリスト、認証、よくある質問

成果

まず測定し、それから移行する。移行は、旧システムと1対1で一致する測定結果をもって完了します。

移行の難しい点

既知のリスクに、測定に基づく回答。

移行の打ち合わせで最もよく耳にする5つの懸念と、それぞれへの回答。

懸念	Butterfly導入後	成果
何を移行すべきか正確に把握できていない。	**まず測定します。** 移行元システムの構成と利用データを読み取り、文書化された構成、導入済みの構成、実際に使われている構成を比較します。	**使われていない構成は移行されず、隠れた範囲が最初から見えます。**
ライセンスの期限が迫り、時間がない。	**移行をフェーズに分けます。** 最もリスクの高いプロセスをまず少人数のチームでパイロットとして試し、その後、段階的に移行します。	**期限が迫っていても、後戻りできないステップが管理なしに実行されることはありません。**
変更のたびにベンダーに依存している。	**変更は貴社にお任せします。** プロセスのステップ、承認ルール、フォーム、権限はプラットフォーム内にデータとして保持されます。変更はソフトウェア開発ではなく、設定です。	**プロセスの担当者が、自らのスケジュールで変更を行えます。**
業務の半分がメールでやり取りされている。	**メールに流れたステップをプロセスに戻します。** 追加書類や追加承認など、メールに流れていたステップは、ルールテーブルでフローに組み込まれます。	**記録されていなかった業務が記録に戻り、監査証跡が完全になります。**
すべてを一度に切り替えることはできない。	**一定期間、2つのシステムを併用します。** Butterflyは既存システムの上で動作します。移行期間中、旧システムと新システムは連携または並行して稼働します。	**変更は一度限りのプロジェクトではなく、管理された構成変更になります。**

承認・BPMシステムからの移行

フォームが固定された承認ツールでは、プロセスがメールに流れてしまいます。Butterflyでは、承認ステップ、フォーム、権限がデータとして保持され、メールに流れていた追加承認や追加書類のステップはルールテーブルでプロセスに戻されます。承認・BPMシステムの移行も同じ手法で行います：測定済みの棚卸し、パイロット、段階的な移行です。

置き換えは必須ではありません

Butterflyへの移行に、すべてのシステムの入れ替えは必要ありません。Butterflyは既存システムの上に導入し、システム間のフロー、ルール、可視性を管理できます。システムの置き換えを目指す場合は、測定済みの棚卸しに基づき段階的に行います。

手法

まず測定し、それから移行する。

すべての移行は同じ順序で進み、後戻りできないステップが管理なしに実行されることはありません。各ステップの終了時に何を測定するかは、そのステップの開始前に文書化します。

1 · 棚卸し
測定して一覧化
移行元システムの構成と実際の利用状況を読み取り、目標設計を作成します。

2 · 移行
移行と再構築
レコードと履歴を移行し、ワークフローをButterfly上に構築します。

3 · 検証
比較
数値基準を旧システムと新システムで並べて比較します。

4 · 段階的な移行
パイロットと切り替え
パイロット、並行稼働、切り替え、旧システムの凍結。

各ステップで何を測定するか

ステップ	実施内容	測定対象
棚卸し	どのシステムから、なぜ移行するのかを確認し、プロセスの担当者と意思決定者を特定します。文書化された構成、導入済みの構成、実際に使われている構成を比較します。目標設計では、データモデル、ステートマシン、連携、およびブロッカーを明示した未決事項リストを作成します。	**構成：プロジェクト、項目、ワークフロー、スクリプト、連携、権限。利用状況：レコード量、実際に動いているフロー、実際に使われているAPIエンドポイント。**
移行	対象範囲のレコード、コメント、添付ファイル、変更履歴を移行します。ステータス、遷移、承認ルールはButterflyのプロセスエンジンで構築します。	**移行元と移行先のレコード件数、文書化された範囲リストの各項目のステータス。**
検証	旧システムと新システムに同じ問いを投げ、結果を並べて比較します。移行は品質管理テストレポートをもって完了します。	**レコード件数、合計時間、未完了タスク数、テストレポートの各シナリオの結果。**
段階的な移行	最もリスクの高いプロセスを、組織のデータを使って少人数のチームでパイロットとして試します。旧システムと新システムは一定期間、連携または並行して稼働します。切り替え時に最終差分を移行し、旧システムを凍結して停止します。	**事前に文書化したパイロットの完了基準、切り替え時に移行した最終差分。**

分析に必要なもの

移行元システムまたはデータベースへの読み取り専用アクセス、あるいは代表的なエクスポート、実際の利用データ、既存のドキュメント（ある場合）、プロセス担当者との短いヒアリング。既存システムに対して本番環境での変更は行いません。

範囲

何を移行し、何を再構築し、何を残すか。

棚卸しの成果物は、各コンポーネントの横に記された判断です。範囲はこのリストをもとに協議するため、移行後に想定外の事態は起きません。

移行

レコードと履歴

プロジェクトとタスク、資産レコード、コメント、添付ファイル、工数記録、スプリント、ボード、保存済みフィルター、変更履歴。

再構築

ルールと機能

ステータス、遷移、承認ルールはプロセスエンジンで構築します。マーケットプレイスのアドオンのうち実際に使われている機能は、Butterfly上で再構築します。

対象外

使われていない構成

使われていない構成は移行しません。非常に大量の技術的な処理履歴は、必要に応じて新システムに移行せず、アーカイブで参照可能な状態にしておきます。



移行の棚卸し。各コンポーネントに、移行可能、要調整、再開発、対象外のいずれかが付けられ、移行計画はウェーブに分割されています。Butterfly上に構築したサンプル画面です。数値はサンプルデータです。

制約は最初に明記します

- マーケットプレイスのアドオンはそのままは移行されません。実際に使われている機能を洗い出し、必要なものをButterfly上で再構築します。
- どの機能がそのまま移行され、どれを再構築し、どれを対象外とするかは、移行前に文書で一覧化します。
- どのデータをどのシステムに残すかは、移行前に決定します。

連携とワークフロー

同じAPI、新しいアドレス。

業務管理システムの移行で最も多い質問は、既存のスクリプトや接続がどうなるかです。TaskFlowでの答えは、互換性のあるAPI層です。

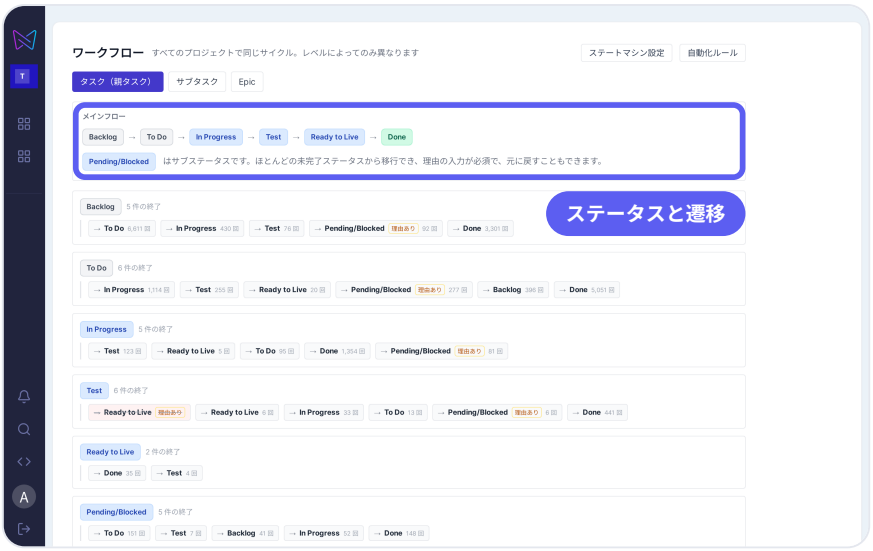
TaskFlowは、一般的な業務管理ツールのREST APIと同じパスとパラメーターで動作するインターフェースを提供します：REST API v2とv3、アジャイルボードとスプリントのエンドポイント、サービスデスクのエンドポイント。Webhookは署名付き（HMAC）で送信されます。認証はメールアドレスとAPIキー、または個人用アクセストークンで行います。サポート対象のエンドポイントを使うスクリプトやレポーティングの接続は、多くの場合、アドレスとアクセスキーを変更するだけで引き続き動作します。

棚卸しに基づいて検証

APIのバージョン、認証、Webhookの利用状況は、棚卸しに基づいて一つずつ検証します。重要な連携は、移行前に貴社独自のシナリオでテストします。資産・保守システムや承認システムでは、ERP、ID、レポーティングとの接続を、データの方向と頻度とともに一覧化します。

非対応

アプリ内のOAuth 2.0（3LO）接続には対応していません。認証はAPIキーまたは個人用アクセストークンで行います。



ワークフロー。各ステータスから許可されている遷移。保留にするタスクには理由の入力が必須です。自社のTaskFlow環境より。

ワークフローは再構築し、ルールは記録に残す

- 自社の移行では、ワークフローをプラットフォームのプロセスエンジンで構築しました：11のステータス、46の遷移。
- 保留にするタスクには理由の入力が必須で、工数超過時には超過理由の入力を求めます。
- 108の自動化ルールを移行しました。各ルールのトリガーと実行回数は一つのテーブルで追跡しています。

現場から 1 · 業務管理

自社の業務管理システムを1日で移行しました。

Butterflyを開発するチームは、使用していた業務管理ツールを、添付ファイルと変更履歴を含めてすべて同日中にTaskFlowへ移行しました。

89

件のプロジェクトを同日に移行。切り替え、最終差分の移行、旧システムの凍結もすべて同日に実施

32,130	34,112	667,864	8/8
件のタスク	件の工数記録	件の変更履歴	測定値が完全一致

移行は測定をもって完了。

移行の完了後、8つの測定値を移行元システムと並べて比較しました。8つすべてが完全に一致しました。

測定項目	移行元システム	TASKFLOW
アクティブなスプリントのタスク	934	934
サブタスク	721	721
未完了のタスク	428	428
保留中のタスク	54	54
工数の内訳（4項目）	完全一致	完全一致

- チームが移行元ツールで実際に使っていた48の機能を一つずつ比較しました：43が対応済み、3が一部対応、2が対象外です。
- 移行は69件のテストからなる品質管理レポートをもって完了しました。

出典：Butterfly TaskFlow White Paper。移行後、スプリント完了レポートは自動で作成され、ワークフロー上のすべての保留理由と超過理由が記録されています。

現場から 2 · 資産と保守

製造業における資産・保守システムからの管理された移行。

製造業のある組織では、資産・保守プロセスが高価で柔軟性に欠けるシステムに縛られていました。故障や作業のリクエストは資産履歴と切り離され、定期保守と計測ベースの保守は担当者個人の管理に依存していました。

資産レコード、保守定義、約24,000件の作業指示の履歴を旧システムから移行しました。定期保守、故障報告、作業リクエストの各モジュールが本番環境で稼働しています。

~55,000 | **件の資産を旧システムから移行し、一つのプラットフォームで管理**

何を移行し、何を再構築したか

項目	BUTTERFLYでの対応
資産レコード	シリアル番号、メーカー、設置場所、リクエスト履歴とともに、測定済みの棚卸しから移行しました。資産はグループ化しました。
定期保守	12か月のローリング計画をシステムが作成し、タスクは毎週起票されて担当者に割り当てられます。承認者が却下すると、タスクは担当者に差し戻されます。
計測に基づく保守	稼働時間に連動する設備ではしきい値を計算し、保守が不要な場合はタスクが自動でクローズされます。
故障と作業リクエスト	故障、保守、変更のリクエストは分類され、同じフローに入ります。
現場訪問	保守手順にチェックを入れ、使用した資材と測定値を入力します。タスクが完了するまで承認に回すことはできません。
ERPと権限	資材とコストのレポートはERPから取得します。権限は画面単位と操作単位で定義されています。

制約を最初に明記

資材の使用量は参考情報として保守記録に保持し、在庫の移動はERPで管理します。

移行後

保守ルールが変わっても、ソフトウェア開発プロジェクトを立ち上げる必要はありません。プロセスの担当者が自らのスケジュールで変更を行います。

準備はできていますか？

貴社の移行準備はどの程度整っていますか？

8つの質問、4つの分野：データ、接続、検証、チームと切り替え。右の列は、その質問で準備完了とみなすために必要な状態を示しています。

	項目	質問	準備完了の条件
☐	データ	**移行するデータの棚卸しは完了していますか？**	件数、関係、利用データが文書化されています。
☐	データ	**過去データをどこまで移行するか決まっていますか？**	範囲とアーカイブのルールが文書化されています。
☐	接続	**既存システムのアドオンやカスタマイズを把握していますか？**	一覧があり、それぞれの移行先が決まっています。
☐	接続	**既存システムが接続している他のシステムは明確ですか？**	一覧があり、データの方向と頻度が文書化されています。
☐	検証	**移行の成功を判定する基準は定義されていますか？**	数値基準（レコード数、合計値）が文書化されています。
☐	検証	**実際のユーザーによるパイロット計画はありますか？**	パイロットチーム、期間、完了基準が決まっています。
☐	チームと切り替え	**プロセスの担当者は明確ですか？**	担当者が決まっており、テストの時間も確保しています。
☐	チームと切り替え	**切り替え日と切り戻し計画は準備できていますか？**	切り替え日、並行稼働、切り戻し計画が文書化されています。

自己採点

各質問について、現状に最も近い回答を0から3で採点してください：まったく着手していなければ0、右の列の状態を満たしていれば3。合計を24で割り、100を掛けます。

75以上

移行の準備完了

基本的な準備は整っています。パイロットから移行を始め、段階的に進めることができます。

45〜74

道半ば

準備の大部分はできています。ギャップが解消されるまで、切り替え日を設定しないでください。

45未満

準備が必要

まず測定を行う必要があります。不足点はすべて、手法の最初の2ステップで解消されます。

信頼

移行期間を通じて、データは組織の管理下に。

分析は読み取り専用アクセスで行い、既存システムに対して本番環境での変更は行いません。移行したレコードは、Butterfly上でプラットフォームの権限モデルと監査証跡のもとで保持されます。

オンプレミス導入

Butterflyは組織自身のサーバー上で動作し、データの所在は組織が決定します。

プライベートクラウド

組織専用のクラウド環境で、同じ権限・監査モデルにより動作します。

閉域ネットワーク

インターネットから遮断された環境でも動作できる導入オプション。

権限と監査証跡

ロールベースのアクセス、画面単位と操作単位の権限。変更履歴は移行したレコードとともに引き継がれます。

移行しないと決めた場合

分析の後には、貴社のアプリケーションの完全かつ最新の記述が手元に残ります：機能の棚卸し、実際の例外を含むプロセスフロー、裏付けのある課題点です。この文書は、移行の判断にかかわらず活用できます。

証明書

証明書	範囲
ISO/IEC 27001	情報セキュリティマネジメントシステム
ISO 9001	品質マネジメントシステム
国産品証明書（Yerli Malı Belgesi）	ビジネスプロセス管理ソフトウェア（Butterfly）、国産比率100%、Aクラス、ハイテクノロジー
技術製品証明書	Butterfly DXP、トルコ共和国産業技術省

すべての証明書と検証リンク：butterfly.dev/ja/kurumsal/sertifikalar

よくある質問

移行について簡潔な回答。

すべてのシステムを入れ替える必要がありますか？

いいえ。Butterflyは既存システムの上に導入し、システム間のフロー、ルール、可視性を管理できます。システムの置き換えをご希望の場合は、測定済みの棚卸しに基づき段階的に行います。

過去のレコードも移行されますか？

はい。タスク履歴、コメント、添付ファイル、工数記録、変更履歴を移行できます。非常に大量の技術的な処理履歴は、必要に応じて新システムに移行せず、アーカイブで参照可能な状態にしておきます。

既存の連携は引き続き動作しますか？

業務管理システムの移行では、サポート対象のエンドポイントを使う連携であれば、アドレスとアクセスキーの変更で足りる場合があります。APIのバージョン、認証、Webhookの利用状況は、棚卸しに基づいて一つずつ検証します。

使用しているアドオンはどうなりますか？

マーケットプレイスのアドオンは直接移行されません。実際に使われているアドオンの機能を洗い出し、必要なものはButterfly上での再構築の範囲で検討します。

移行にはどれくらいかかりますか？

期間は、レコード量、ワークフロー、既存の連携によって異なります。最初の評価で、どの部分を移行し、どれを再構築し、どれを対象外とするかを一緒に決めます。

移行計画は測定から始めましょう。

ディスカバリーミーティングで、貴社の現行システムと優先プロセスについてお話しください。どのレコードを移行し、どの接続をテストし、どのルールをButterfly上で再構築するかを一緒に決めます。

移行分析を依頼する · butterfly.dev